

平成27年のハタハタの漁獲状況について

水産漁港課

本県のハタハタ漁は、沖合での底びき網と、一般に「季節ハタハタ漁」と呼ばれる沿岸での定置網及びさし網により行われている。

今漁期の漁獲枠は去年の約半分の800トンで、その内訳は沖合320トン、沿岸480トンとなっており、現在、沖合での底びき網漁が最盛期を迎えている。

これまでの漁獲状況は、次のとおりである。

1 沖合の漁獲状況

- 9月13日から11月24日までの漁獲量は約183トンで、前年同期比は約214%であるが、前々年同期比では約71%となっている。
- 魚体の組成は、中型の2歳魚が主体で、これに小型の1歳魚が混じっている。

[地域別漁獲量 (11/24現在)]

(単位：トン)

地 域	平成27年	平成26年	平成25年
沖合			
県北部	49.6	24.9	70.4
船川	78.2	36.9	118.3
県南部	55.1	23.7	69.9
計	182.9	85.5	258.6
実績(漁獲枠)	(320.0)	285.0 (672.0)	624.0 (768.0)
沿岸計	—	—	—
実績(漁獲枠)	(480.0)	940.0 (1,008.0)	898.0 (1,152.0)
実績計(漁獲枠)	(800.0)	1,225.0 (1,680.0)	1,522.0 (1,920.0)

(水産振興センター調べ)

2 今後の漁獲状況について

- 沖合については、例年に比べ天候に恵まれたことから、11月の出漁日数が14日と前年に比べ3日多くなっているものの、現時点では、漁獲枠に対して約6割の漁獲量となっている。今後、ハタハタは沿岸部に接岸してくることから、沖合の漁獲量は320トンの漁獲枠内になるものと見込まれる。
- 沿岸については、初漁日が平年並みの11月29日頃と予測されていることから、今後の漁獲状況を注視していく。